

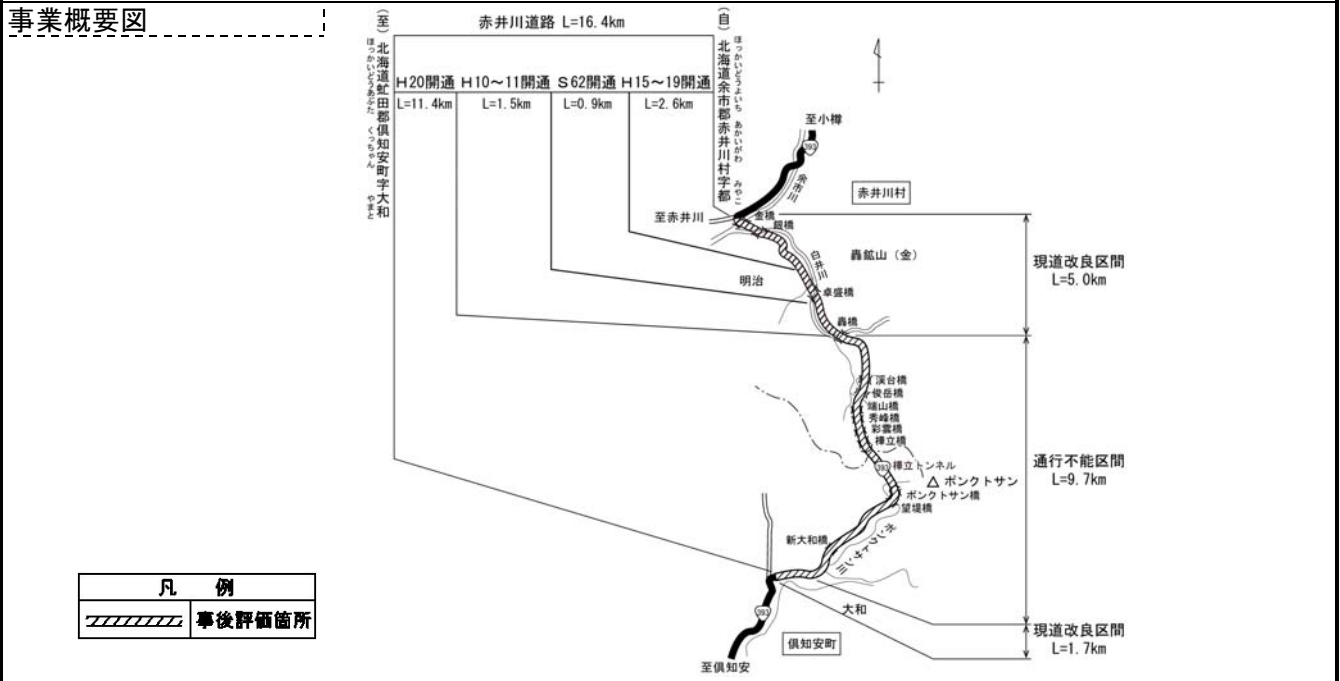
事後評価結果（平成25年度）

担当課：北海道開発局建設部道路計画課
担当課長名：和泉 晶裕

事業名	一般国道393号 赤井川道路 <small>あかいがわ</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道余市郡赤井川村字都 <small>ほっかいどうよいちぐんあかいがわむらみやこ</small> 至：北海道虻田郡倶知安町字大和 <small>ほっかいどうあぶたぐんくつちやんちやまと</small>	延長	16.4 km		

事業概要
国道393号は小樽市を起点とし、赤井川村を経由して倶知安町に至る延長約60kmの幹線道路である。
このうち赤井川道路は、赤井川村字都から倶知安町字大和に至る延長16.4kmの事業である。

事業の目的・必要性
赤井川道路は、通行不能区間の解消を図り、地域間交流の活性化及び物流効率化等の支援を目的とした事業である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S57年度	用地着手	S61年度	供用年	(当初) — / H17年度 (実績) — / H20年度	変動	1.2倍
		都市計画決定	— 年度	工事着手	S61年度	(暫定/完成)	(実績) — / H20年度		
	事業費	計画時 (暫定/完成)	(名目値) — / 280億円 (実質値) — / 191億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) — / 280億円 (実質値) — / 192億円			変動	1.0倍
	交通量	計画時 (現道)	126 台/日	実績 (当該路線)	2,164 台/日			変動	1717.5%
	旅行速度向上 (現道→当該路線)	29.6 → 52.6 km/h (開通前年次) S58年 (開通後年次) H22年	交通事故減少 (現道→当該路線)	32.7 → 6.7 件/億台キロ (開通前年次) H1~3年平均値 (開通後年次) H21~23年平均値					
	費用対効果 分析結果 (当初)	B/C 1.7	総費用 310億円 (事業費: 292億円 維持管理費: 18億円)	総便益 536億円 (走行時間短縮便益: 513億円 走行経費減少便益: 21億円 交通事故減少便益: 2億円)	基準年 平成15年				
	費用対効果 分析結果 (事後)	B/C 1.3	総費用 394億円 (事業費: 370億円 維持管理費: 25億円)	総便益 495億円 (走行時間短縮便益: 418億円 走行経費減少便益: 66億円 交通事故減少便益: 11億円)	基準年 平成25年				
	事業遅延によるコスト増	費用増加額	-4.2億円	便益減少額	76.1億円				

事業遅延の理由
本事業は、昭和57年度に事業化され、昭和61年度に工事着手し、平成17年度の完了を目指していたが、用地取得に時間を要したことにより、事業が遅延したものである。

客観的評価指標に対応する事後評価項目
事業の整備効果

- ①現道における通行不能区間の解消
 - ・赤井川村と倶知安町間の通行不能区間が解消されたことで、所要時間が短縮され、日常生活の利便性向上が図られた。
- ②地域間交流の活性化
 - ・開通を契機とした「メープル街道393もみじ祭」の開催等、周辺市町村が一体となった地域間交流の活性化が図られた。
- ③物流の利便性向上
 - ＜生鮮食品等の流通利便性向上＞
 - ・通行不能区間が解消されたことで、物流拠点から商業施設への所要時間が短縮され、生鮮食料品の流通利便性向上が図られた。
 - ＜農産品の流通利便性向上＞
 - ・通行不能区間が解消されたことで、赤井川村から苫小牧港への輸送時間が短縮され、農産品の流通利便性向上が図られた。
- ④主要な観光地への利便性向上
 - ・所要時間が短縮され、主要な観光地への利便性向上が図られた。
- ⑤災害時の緊急輸送ルートの強化
 - ・国道230号の代替路としての機能が確保され、災害時における緊急輸送道路強化が図られた。
- ⑥大型車のすれ違い困難区間の解消
 - ・狭小幅員が解消され、大型車のすれ違いがスムーズとなり、道路交通の円滑化が図られた。
- ⑦自然エネルギーの開発に寄与
 - ・地熱発電の開発に必要な物資等の輸送ルートとして重要な役割を担う。
- ⑧環境や景観に配慮
 - ・自然環境に調和した景観形成を図り、自然に優しいみちづくりを行った。

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業による環境変化

環境影響評価に対応する項目

環境影響評価の対象外事業である。

その他評価すべきと判断した項目
特になし

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された事後評価結果準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業を巡る社会経済情勢等の変化

- 人口・産業等の社会経済情勢の変化 (対象地域：赤井川村、倶知安町)
 - ・人口は、事業化当時約20.4千人(S60)→開通後約16.8千人(H22)となっている。(国勢調査)
 - ・農業産出額は、事業化当時約68億円(S60)→開通直前約59億円(H18)となっている。
(北海道農林水産統計年報)
 - ・観光入込客数は、事業化当時約1,148千人(S60)→開通後約1,929千人(H22)となっている。
(北海道観光入込客数調査)

今後の事後評価及び改善措置の必要性

赤井川道路の整備により、通行不能区間の解消、地域間交流の活性化及び物流効率化等の支援など当初の目的が達成されていることから、今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。
なお、今後も利用状況の把握に努めるとともに、利用しやすい道路環境を確保するため、適切な維持管理に取り組んでいく。

計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

同種事業の計画・調査のあり方についての、見直しを必要とする事項は見られない。また、事業評価手法について、見直しの必要性はない。

特記事項

特になし

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。